

内容の貴重なものは勿論此の中にも少くない。

露西亞のものは戦前彼得堡のアジアツキー・ムゼーと、エトノグラフィツキー・ムゼーとに在つたが、今の消息は知らぬ。カズロフ大佐が西夏の遺跡のカラホトで発見した纏つた蒐集を別にしては、こゝのも獨逸と同様、諸方の沙土に埋つた廢墟から得た斷片の類が多かつた。

吾が國のものは今は京城の朝鮮總督府博物館と、旅順の關東都督府博物館とに陳列せられて居る。

此等諸國の蒐集を通覽した所に依ると、それ〴〵蒐集の數の差こそあれ、同一地方からは、ほと同様の種類を蒐め得て居ると謂ひ得る。その中、量に於てもまた區域の廣さに於ても、最も多きに及んで居るのは英國の蒐集であつて、スタイン氏の第三回の探檢によつて獲られたものは、一昨年夏には尙引續き倫敦に到着しつゝある有様であつた。獨逸のものは廣い地域に亙らないまでも、或る地點の遺物、例へば高昌の遺跡の如きを根氣よく大規模に發掘して、細大洩らさず、前記のやうに壁畫までもそのままに齎した點を特徴とすべく、佛蘭西のものは燉煌出土の文籍に重要なものが多く、殊に之が一應既に整理の出來て居るのを特色とする。此等の蒐集は各國の力に俟ちたればこそ、僅の間にかくまで多數を蒐め得たには相違ないが、然も之を見て更に欲望の禁じ得ないのは、もし之が一つに纏つた力で成されたか、若しくは個々の力を一つに集めてか、兎も角、すべての蒐集を一所に集め置くことが出來て、研究上に自由に比較の便宜を供されたならばと思ふことである。併しこれは望蜀の念の甚だしきものであるし、また然らざる所に價值も利益も認め得るとも言ふことも出來よう。